

▲△△ 平ヶ岳 ～奥利根の秘境～ ▲△△

(報告) J.F

◎期日：2019年7月7日

◎メンバー：J.F (L)、他1名 (友人)

新潟と群馬の県境にある日本百名山、平ヶ岳に登ってきた。ネットや本では、この山のことを「日帰り最難関」とか「ジャパニーズテーブルマウンテン」とか書いてあるけど、自分は「奥利根の秘境」にピンときた。このご時世に秘境ってどんなところ？とそそられる。一昨年に燧ヶ岳の頂上から見た、残雪を纏った平ヶ岳がとても印象的だったので、その時から機会を伺っていたのです。

魚沼から奥只見湖を経て、狭い峠道をひたすら車で移動。前日22時に鷹ノ巣登山口駐車場に到着し車中泊。駐車場は半分くらい埋まっていた。梅雨の中休みを目論んで来たのに霧雨が降っている。明日はどうなることやら。

朝4時過ぎに登山口を出発。駐車場はほぼ満車。天気は曇りで、まだ薄暗い樹林帯を進む。体が温まってきた頃には早くも急登の痩せ尾根を登っていく。雲の隙間から差す朝日が眩しく、天気いけるかもと期待したいが、山頂方向がどんより雲なので微妙だ。コースタイム12時間の長丁場なので、ペースを抑え気味にして足を進める。平ヶ岳の名前の通り、山頂付近は平らなのだろうけど、とんでもない、アルプス並みの急登で登りがいいがあった。



(なるほど秘境、山が深い)

休憩ポイントの下台倉山に着き、1個目の急登をクリア。同行の友人の疲労の色が濃くこの先はペースを落とすこととした。左手に燧ヶ岳の山腹が見えるが、残念ながら山頂はガスがかかっている見えなかった。こりゃ、平ヶ岳山頂もガスかな～。

ここから先は、トラバース気味に進んだ後、樹林帯に入って木道が多くなっている。粛々と距離を稼ぎ、最後の急登である池野岳手前の登りに差し掛かる。標高が上がるにつれてガスが立ち込め小雨が降ってきた。後ろを歩く友人は登りながら苦悶の表情だ。下りがあるし、引き返すことも一瞬考えたが、池ノ岳まで行こうと励ましつつ何とか池ノ岳(姫ノ池)に到着。

さっきまで急登だったのに、急に平らな湿原になったのには驚いた。雨は止んだがガスがかかっている

て良く言えば幽玄な雰囲気、悪く言えば周囲の山の眺望なし。平ヶ岳も見えない。姫ノ池手前の木道脇のスペースに登山者が休憩している。皆、疲れた感じが全くなく健脚揃いだ。ここから平ヶ岳山頂まで40分。休憩して友人が回復したので、木道を歩き山頂へ行くこととした。



(姫ノ池)

周囲が真っ白なので方向感覚がつかめない。木道の脇にはワタスゲが沢山咲いている。苗場山、会津駒ヶ岳の湿原とそっくりで、古い平坦な土地が隆起して浸食される以前の地形を今にとどめていると考えられているとのこと。緩い勾配の木道を登ると平ヶ岳の三角点に到着。この後、最高点まで行って、やや引き返して昼食を摂る。



(平ヶ岳 左：三角点と右：最高点)

このガスでは、玉子石に行く気にならず姫ノ池まで戻り休憩していたら、雲が薄くなってガスも幾分晴れてきた。平ヶ岳山頂は見えないがこれだけでも気分が明るくなる。この日テンションMAXの一時。

湿原を後にし、本格的な下山を開始する。下の方はガスがなく、登りの時より段違いに視界が良い。下る途中で平ヶ岳の山容を拝むことができた。山頂は相変わらずガスってますけど。この後、長い下りを経て無事登山口に到着し、友人と握手を交す。奥利根の秘境を満喫することができた。



(下山途中でやっと拝めた平ヶ岳の山容)

<<コースタイム>>

鷹ノ巣登山口 4 : 10～下台倉山 6 : 20～池ノ岳 9 : 35～平ヶ岳 10 : 10～池ノ岳 11:30～下台倉山 14:30～

鷹ノ巣登山口 16 : 20

(了)